

平成23年度事業報告

[平成23年4月1日～平成24年3月31日]

財団法人日本宇宙少年団

平成23年度の事業は、昨年に引き続き財団の目的を達成するため、寄附行為第4条に定める事業を以下のとおり実施した。

[I] 事業関係

1. 本部事業

1-1. 運営委員会の運営

YAC分団活動・運営方針の検討を行う全体委員会のほか、共通プログラム、団員に係る調整を検討する「子ども部会」、リーダーの育成を検討する「指導者育成部会」、教材開発を検討する「教材開発部会」、活動に係る財政支援、アウトリーチ策を検討する「おとな部会」からなる「YAC運営委員会」を以下のとおり開催した。

【開催日】

- 平成23年 4月 9日 : 事業計画、本部体制、公益法人申請について
- 平成23年 6月17, 18日 : 宇宙子どもワークショップ2011、休眠分団について
- 平成23年10月21, 22日 : 公益法人認定について
- 平成24年 1月20日 : 平成24年度体制、団員の増加推進、公益法人への移行について
- 平成24年 3月17日 : 宇宙子どもワークショップ2012について

1-2. 分団活動の拡充

分団活動をより充実させるため、以下の事業を実施した。

(1) 分団の運営支援

「分団・団員管理システム」を用いて、分団の活動状況及び人材(団員・指導員)に関する情報、データの収集・管理を行い、分団活動や運営に有効な情報提供を行なった。

(2) 地区連絡協議会の活動推進

分団相互の情報交換や研修を行うことを目的に、全国9地区(北海道・東北・関東・北陸信越・東海・近畿・中国・四国・九州)の地区連絡協議会の活動を推進した。

(3) 分団長会議

地方本部長、支部長及び分団長の参加による「全国分団長会議」を平成24年1月21、22日に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催し、YAC活動の方策及び問題点の協議、情報交換等を行い、分団活動の活性化を図った。また、公益財団法人への移行に伴う規則等に関して意見の交換等を行った。

内容要旨

- ①公益法人移行に関する説明及び、日本宇宙少年団団体規程(案)、団員の入会及び会費規程(案)について財団事務局より報告があり、質疑応答がおこなわれた。
- ②本部からの報告として、本部運営委員会の子ども部会、指導者育成部会、教材開発部会、おとな部会からの年間活動報告、平成24年度の活動にかかる共通プログラム、ホンモノ体験、テーマ別事業計画などの報告があった。
- ③地区ブロックごとに別れての協議がおこなわれ、平成24年度の地区連絡協議会の会長、水ロケットコンテストのブロック大会の予定、地区内の分団活動の活発化などが議論された。

議長:大野裕明(福島分団)

出席者数:分団長(代理出席者含む):35名

委任状提出分団長:52名

オブザーバー:10名

本部運営委員:10名

本部役職員:11名

JAXA:3名

(4) 教材についての情報提供

各種教材の指導方法及び入手方法について、ホームページ等を通して情報の提供を行なった。

1-3. 分団結成及び団員拡大

JAXAの宇宙教育の拠点化による全国展開施策と連携し、分団結成および団員拡大を図るとともに関係機関への協力要請を行なった。

(1) 分団結成状況

平成23年度には次の4分団が新たに結成された。

- ① 八幡西八枝分団 (福岡県) 平成23年 4月 3日
- ② 徳島あすたむ分団 (徳島県) 平成23年 7月 2日
- ③ 宮崎テクノ分団 (宮崎県) 平成23年10月 5日
- ④ 市川COSMOS分団 (千葉県) 平成23年10月23日

これにより、平成24年3月末現在の地方組織の状況は、1地方本部、8支部、139分団となった。

1-4. JAXA及び科学館等との連携

宇宙教育活動の推進のため、JAXA及び科学館等との連携を図り、指導者育成やホンモノ体験活動、宇宙教育用教材の開発、宇宙をテーマとした各種イベント等を実施した。

1-5. 情報の提供及び広報活動

団員および一般へYACの主催するイベント情報の提供を行うとともに、全国の分団活動の紹介をwebを通じて広く一般へ公開した。

(1) 青少年に対する情報誌の発行等

- ① JAXA/YAC/(株)学研教育出版、共同編集による「宇宙(そら)のとびら」の編集、配布(発行元:JAXA)
- ② 「スペースガイド 宇宙年鑑2012」の編集協力

(2) ホームページ等による情報の提供

本部・分団の情報を迅速に分団・団員及び一般の利用者に公開するとともに、本部と分団のホームページをリンクし、分団の情報及び本部イベントの情報、分団活動に役立つ教材情報などを提供した。また、宇宙・科学に関する情報を、各分団員及び指導員へ電子メールで提供した。

1-6. 普及啓発事業

宇宙教育の理念に基づき、以下の青少年に対する普及啓発事業を実施した。

(1) ホンモノ体験事業

① 種子島スペースキャンプ2011

種子島宇宙センターの見学、自然環境学習、キャンプ実習等をカリキュラムとした体験形式の「種子島スペースキャンプ」を開催し、青少年の宇宙及び地球環境への理解増進と併せて健全な人材育成を図った。JAXAと日本宇宙少年団鹿児島地方本部と共に、種子島スペースキャンプ支援協議会(鹿児島県、西之表市、中種子町、南種子町で構成)の協力を得て、株式会社南九州ファミリーマートの協賛を得て、平成23年7月25日(月)~29日(金)の日程で開催した。

参加人数:60名 対象:小学4年生~中学3年生

② 銀河教室 in つくば

的川泰宣副本部長が毎日小学生新聞で連載中の「銀河教室」の体験版として、毎日新聞、毎日小学生新聞とともに、新日本製鐵の協賛を得て、筑波宇宙センターにおいてキャンプを開催した。特別見学、宇宙飛行士模擬訓練、ISSの古川宇宙飛行士との交信を体験するキャンプを平成23年8月1日~2日の日程で開催した。青少年の宇宙への理解増進と併せて健全な人材育成を図った。

参加人数:40名 対象:小学4年生~中学3年生

③ 2011 KaSpI 宇宙ふれあいサマーキャンプ inHOTANI

子どもたちが宇宙や地球の不思議に触れることをきっかけに自然や科学に興味を持ち、関心を高めるよう、ロケット打ち上げ音響体験、人工衛星の目のひみつをさぐる分光器工作、GPS 宝探しなどを体験するキャンプを開催し、青少年の宇宙への理解増進と併せて健全な人材育成を図った。関西宇宙イニシアティブ (KaSpI) と JAXA とともに京都大学・大阪府立大学・花山星空ネットワーク・関西学生星のネットワーク (KSSN) の協力を得て、枚方市野外活動センターで平成23年8月27日～28日の日程で開催した。

参加人数：72名 対象：大人から子どもまで

④ 筑波スペースキャンプ2011 衛星はみぢかに TKSC-5

平成23年12月25日～26日、筑波宇宙センター内において実施した。特別見学、人工衛星のデータ利用について学んだ。JAXA 宇宙利用ミッション本部地球観測研究センター研究員の話、パソコンを使用する衛星データの実習、衛星画像からわかることについて意見を出し合い、班ごとに自分たちで課題を設定し、リーダーや講師の話、衛星データを使って、研究をまとめた。青少年の人工衛星のデータ利用への理解増進と併せて健全な人材育成を図った。

参加人数：26名 対象：小学4年生～中学3年生

⑤ 調布エアロスペースキャンプ2012

平成24年3月26日～27日の日程で、調布航空宇宙センターにて実施した。未来の飛行機や未来の飛行機が飛ぶ航路を考えながら「航空技術」の世界にチャレンジする2日間。風洞実験装置や航空機の展示を見学、研究者から、極超音速機や航路について話を聞きく。夜は、国立天文台にて天体観察を実施した。青少年の航空への理解増進と併せて健全な人材育成を図った。

参加人数：20名 対象：小学4年生～中学3年生

⑥ 筑波スペースキャンプ2011 TKSC-6

平成24年3月28日～31日の日程で、筑波宇宙センター内において、空き缶サイズの人工衛星 (缶サット) を作成し、本物の人工衛星開発でも行われる環境試験を模擬し、缶サットに対し、振動試験、真空試験、低温高温試験を行い、データを解析した。バルーンにて投下実験も行い、缶サットの状況をデータから読み取った。本物の試験設備も見学し、実践的に人工衛星開発について学んだ。青少年の宇宙への理解増進と併せて健全な人材育成を図った。

参加人数：16名 対象：高校生

⑦ ロケットガール&ボーイ養成講座 YAC チーム

平成23年12月～平成24年3月にかけて、高校生13名がハイブリッドロケット製作、打ち上げ実験を実施した。宇宙教育指導者セミナーを受講した大学生が計画をサポートした。プロジェクトマネージャーを中心に、電装班、機体班、燃焼班のチームで製作し、伊豆大島にて打ち上げ実験を実施し、青少年の宇宙への理解増進と併せて健全な人材育成を図った。

参加人数：13名 対象：高校生

(2) 宇宙飛行士参加事業

① 三菱電機Presents「古川宇宙飛行士ISSリアルタイム交信イベント」

国際宇宙ステーションにいる古川宇宙飛行士とテレビ電話回線でメイン会場である日本科学未来館及び名古屋市科学館、仙台市科学館を結び、古川宇宙飛行士の専門分野である医学を中心として、宇宙開発が私たちの未来にどのように役立っていくかなどの質疑応答を行う「スペース・キッズ・プラットフォーム2011～古川宇宙飛行士の長期宇宙滞在におけるリアルタイム交信イベント」を、三菱電機の特別協賛により、日本小児科学会、中日新聞、東京新聞の後援、JAXA、日本未来館等の協力を得て平成23年8月30日に開催した。また、この交信の前に各地域で「食事と健康・運動の大切さ」をテーマに講演などを行った。

(入場者数及びメディア掲載)

■参加者	東京	名古屋	仙台
募集人数	50組100名	45組90名	50組100名
参加者(小人)	32	45	51
参加者(大人)	32	45	51
各会場(計)	64	90	102
(合計)	256		

■関係者	東京	名古屋	仙台
YAC関係	10	5	0
運営関係	22	9	7
科学館関係者	5	10	13
MELCO	20	5	5
講師	2	0	0
JAXA	3	1	0
早稲田大学学生	13	0	0
各会場(計)	75	30	25
(合計)	130		

【新聞】

東京新聞 8/31、中日新聞 8/31、日刊スポーツ 9/19付
電気新聞 9/1朝刊、朝日新聞 8/31朝刊・9/11朝刊

【雑誌】

モーニング9/29

【ラジオ】

TOKYO-FM 9/19 17:00-18:55

【テレビ】

OX（仙台放送）8/31 11:30すぎ

KHB（東日本放送）8/31 18:30すぎ

THK（東海テレビ放送）8/30 23:52すぎ

CBC（中部日本放送）8/30 23:55すぎ

NBN（名古屋テレビ放送）8/31 7:54すぎ

【webサイト】

ガジェット通信

<http://getnews.jp/archives/139143>

ヤフーニュース

http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20110909-00000059-zdn_mkt-ind

モーニングWEBサイト

<http://morningmanga.com/news/1475>

② 大塚製薬Presents「ハローヒューストン」

本事業は、インターネット回線やテレビ電話回線を利用した、宇宙飛行士と子ども達の直接交流プログラム。23年度は、大塚製薬が特別協賛となり、オロナミンC Presents「ハローヒューストン」を平成23年11月と12月の2回実施した。本プログラムを通して、以下の目的のとおり、参加者と宇宙飛行士の直接対話・質問をすることで、広く一般へ有人宇宙活動への理解を増進させ、参加者の宇宙への夢やあこがれを醸成させた。

【目的】

- (1) 日本中の子ども達に将来の夢に向かってチャレンジする精神を育み将来世界で通用する人間の育成に貢献する。
- (2) 子ども達に日本のみならず、地球規模のスケールを意識させる。
- (3) 数多くの子供達に(宇宙)ホンモノを体験させる機会を提供する。

【実施】

【1回目】平成23年11月19日（土）11：30～12：00

日本科学未来館／毛利宇宙飛行士

大阪会場（大阪科学技術センター）／来場者約130名

福岡会場（福岡スカラエスパシオ）／来場者約70名

【2回目】平成23年12月10日（土）14：00～14：30

筑波宇宙センター／毛利宇宙飛行士

東京会場（東京大学一条ホール）／来場者約200名

札幌会場（ガーデンシティ札幌）／来場者約200名

③ ハローヒューストンinキゴ山

テレビ会議システムを活用し、日本人宇宙飛行士との交流機会を設け、参加者と宇宙飛行士の直接対話・質問により、有人宇宙活動への理解を増進し、参加者の宇宙への夢やあこがれを醸成させることを目的に行なった。

日程：平成23年10月16日（日）

会場：石川県金沢市 銀河の里キゴ山

参加者：小学生～高校生 100名

対応宇宙飛行士：JAXA 金井宣茂宇宙飛行士

(3) 特別テーマ事業

① 宇宙子どもワークショップ2011

宇宙教育活動の成果発表の場として、全国の子どもの心の集結につながるような全国大会を目指していたところ、平成23年3月11日に東日本大震災が発生したため、その復興支援プロジェクトの一環として、平成23年6月から10月に被災地である東北地域への「宇宙子どもワークショップキャラバン」の実施を軸として、平成23年11月5、6日JAXA筑波宇宙センターにおいて、メディアや企業と連携した宇宙教育・宇宙開発の魅力を活かし、子どもからメッセージを全国に発信するプログラム等を「宇宙子どもワークショップinつくば」として実施した。

また、平成23年6月から9月に「日本水ロケットコンテスト2011」として、各地にて、水ロケットの予選会及びブロック大会を行い、各ブロック大会の定点部門参加者の上位入賞者のうちからレポート等で選ばれた子ども2名をアジア・太平洋地域宇宙機関会議(APRSAF)水ロケット競技に派遣した。

【実施プログラム】

ア. 宇宙子どもワークショップキャラバン

期間：平成23年6月～10月

会場：青森、岩手、宮城、福島の被災地とその周辺地域の学校、大学、科学館、公的施設等前25か所

対象：被災地域や周辺地域の子ども及びその家族、一般

参加者数：6,540人

イ. 宇宙子どもワークショップ2011inつくば

期間：平成23年11月5日～6日

会場：JAXA筑波宇宙センター

内容：

a. 「宇宙で日本を元気にする」をテーマに子ども達が意見を出し合い提言にまとめる

対象：中学1年生～高校3年生 18人

被災地の子ども 12人（招待枠：岩手、福島）

一般募集による子ども 6人（東京、愛知、大阪、
鳥取、福岡）

b. 「ディスカバリーきつず」科学実験館
～コズミックカレッジ～

対象：一般応募による子どもとその家族
（子ども45人、大人41人）

c. 「スペースキューブ」を利用した一般向けワークショップ
（ペーパークラフト）や企業ビデオの紹介

対象：JAXA筑波宇宙センター一般見学者

11月5日（土）135人参加

6日（日）125人参加

ウ. 日本水ロケットコンテスト2011

期間：平成23年6月～9月

会場：全国の大学、科学館、公的施設等

対象：小学校4年生～高校3年生

参加者数：地区ブロック大会予選会等	2, 553人
一般向けコズミックカレッジ	588人
地区ブロック大会	640人

② 自然の恵み・食フォーラム ～食でつながる 人、世界、宇宙～

「宇宙」をテーマの1つとして、子どもに人気・興味関心の高い宇宙食を通して、宇宙飛行士の栄養健康管理から、参加者に食事の重要性や運動することの大切さ等、理解させることを目的とし、JAXA専門家およびスポーツ科学の専門医師を招いて、実際の宇宙食を使った講義を実施した。また、「自然と食」をもう一つのテーマとして、ここから、食を通じた自然との交流、世界との交流、自然環境を食から学ぶプログラムを実施した。

【実施日】

平成23年11月12日

【会場】

（メイン） 東京大学アイソトープ総合研究所

（サテライト）名古屋大学マイクロメカトロニクス研究センター

（サテライト）仙台市科学館

【対象】

親子90組 180名（3会場）

【実施プログラム】

■基調講演：安田喜憲氏（人間文化研究機構 国際日本文化研究センター 研究部 教授）「自然の恵み・食 ～世界に誇る日本の食文化～」

・宇宙でも人気の「宇宙日本食」の秘密

・水に恵まれた日本、健康な身体とお米とお魚の関係

■講義内容：多地点接続により、国立スポーツ科学センタークリニック専門医（中村格子先生）とJAXA宇宙食の専門家（船橋豪氏）による「食

と健康について」のトークセッションや船橋さんの宇宙食授業を3地区で共有し、質疑応答の交流を図った。東京会場では、注湯器を使い実際の宇宙食を子ども達に実演した。最後に宇宙食認定の「さば缶」と「アルファ米」＝「さば丼」の試食を子ども達にしてもらった。

③ 放課後支援活動「江東きっずクラブ」

放課後子ども教室（愛称「げんきっず」）は、放課後や夏休み、冬休み等に小学校の教室や校庭、体育館などを活用し、こどもたちの安全で健やかな居場所づくりを目的として実施している。今年度の新たな取り組みとして、東京都江東区教育委員会 放課後支援課の協力の下、児童の新たな興味、関心を喚起するため、以下のとおり「宇宙」をテーマとしたプログラムを3回シリーズで実施した。

【実施】

【場 所】 江東区立第六砂町小学校内 「きっずクラブ六砂」

【参加者】 第六砂町小学校児童生徒 50名

【1回目】 テーマ：ロケット（水ロケット製作・打上げ体験）

協 力： J A X A宇宙教育センター
江東区教育委員会放課後支援課
江東区広報・ケーブルTV

【2回目】 テーマ：衛星（光をにじ色に分ける？分光器製作他）

協 力： J A X A宇宙教育センター
三菱電機（「衛星のひみつ」のアニメ映像とクイズにより衛星の様々なことについて学習した）
三菱プレジジョン（「宇宙コマ」の実演と体験を通して衛星の姿勢について学習した）

取材協力：毎日小学生新聞

【3回目】 テーマ：ミッションX（宇宙飛行士のように心身を鍛えよう）

協 力： J A X A宇宙教育センター

④ 三菱商事株式会社「東日本大震災復興支援助成金」活用事業

三菱商事株式会社の「東日本大震災復興支援助成金」を活用して、以下の3件の事業を実施した。

ア. 「宇宙子どもワークショップ2011inつくば」における「日本を元気にする」プログラムへの被災地の子ども達の参加

このプログラムに全国から応募した6名に中学生、高校生とともにJAXA筑波宇宙センターにおいて、宇宙飛行士の訓練体験や同センターの見学も交え、1泊2日で「宇宙を使って日本を元気にする方法」について意見を出し合い、提言としてまとめた。

開催日：平成23年11月5～6日

参加者：被災地である岩手県、福島県の中学生、高校生12名及び引率教員4名

イ. 日本科学未来館におけるYAC福島分団きぼうの団員と毛利衛宇宙飛行士、YAC松本零士本部長及びYAC未来MM分団との交流会の実施
開催日：平成24年3月11日

参加者：YAC福島分団きぼうの団員20名、保護者25名、指導員3名

ウ. 夢と希望あふれる旅～最先端の宇宙開発が物語る未来を覗きに行こう！～

岩手県、宮城県、福島県で活動する日本宇宙少年団4分団及び、子ども・宇宙・未来の会が主催した「宇宙の学校inしおがま」に参加した子ども達及び引率者を招き、松本本部長、的川副本部長との交流や、日本科学未来館の見学、JAXA筑波宇宙センターの見学を実施した。なお、この事業には、東日本大震災発生直後にYAC福岡分団よりお送りいただいた義援金(20,524円)も併せて充てさせていただいた。

開催日：平成24年3月24～25日1泊2日

参加人数：36名

参加者数詳細①水沢Z分団6名(引率者含む)

②宇宙の学校inしおがま12名(引率・保護者含む)

③仙台たなばた分団7名(引率者含む)

④こおりやま分団6名(引率者含む)

⑤白河分団5名(引率者含む)

⑤ 古川宇宙飛行士応援イベント in 横浜

YAC本部とYAC横浜分団と三菱みなとみらい技術館で、6月5日、三菱みなとみらい技術館にて、「古川宇宙飛行士が行く宇宙ってどんなところ？」というテーマで、宇宙がどんなところかを学ぶワークショップ(班ごとでのディスカッション、発表)を開催し、青少年の宇宙への理解増進と併せて健全な人材育成を図った。

参加人数：20名 対象：小学4年生～中学3年生

(4) その他事業

① 教材の配布

青少年向け活動教材をJAXA宇宙教育センターより提供を受け、分団・団員へ配布した。

平成23年12月 テキスト「ひかりのふしぎ」及び「簡易分光器セット」

平成24年3月 テキスト「有人宇宙船」及び「宇宙ノート」

② 講師派遣

缶サット・リーダー・トレーニング・プログラム(CanSat Leader Training Program, CLTP)への講師派遣

缶サットを搭載したモデルロケットの打ち上げ実証実験に際し、YAC本部事務局より、H型モデルロケット打上げ有資格者を派遣した。

第2回CLTP 開催日程： 2011年11月14日～12月14日（於：日本大学）

主催： 日本大学、UNISEC

参加国： 10か国より10名参加（ガーナ、インドネシア、マレーシア、モンゴル、ナイジェリア、ペルー、シンガポール、タイ、トルコ、ベトナム）

② 宇宙教育テレビ

日本全国の子供達や宇宙教育関係者、更には一般の方々が、「宇宙」を身近に感じ、「宇宙」を通して好奇心や冒険心、匠の心を育ててもらえることを目指して、JAXA 宇宙教育センターと連携してインターネット配信番組を放送。

定期放送：毎月、第2・第4水曜日 19:00～19:45

特別放送：ロケットの打ち上げ、宇宙飛行士関連に合わせて放送

放送日	タイトル
2012年3月14日(水)	【第84回】宇宙記念日特集 ライブ放送
2012年3月9日(金) ～3月11日(日)	【第83回】第8回種子島ロケットコンテストライブ放送
2012年2月22日(水)	【第82回】宇宙なんでも実験隊 UNJ「冬の実験」ライブ放送
2012年2月8日(水)	【第81回】Dr.高木の宇宙豆知識スペシャルライブ放送
2011年1月25日(水)	【第80回】宇宙情報イベントマスターへの道 ライブ放送
2012年1月11日(水)	【第79回】2012年 新春スペシャルライブ放送
2011年12月28日(水)	【第78回】2011年 年末スペシャルライブ放送
2011年12月19日(月)	【特別放送】1日宇宙記者 内之浦からライブ放送
2011年12月14日(水)	【第77回】APRSAF水ロケットの世界大会に挑戦しよう！
2011年12月10日(土)	【第76回】皆既月食を観察しようライブ放送
2011年11月22日(火)	【第75回】古川宇宙飛行士帰還ライブ放送
2011年11月9日(水)	【第74回】衛星データ利用コンテストに参加しよう！ライブ放送
2011年11月6日(日)	宇宙子どもワークショップ2011inつくば ライブ放送
2011年10月26日(水)	「ハローアクエリアス！」大西宇宙飛行士との交信授業ライブ放送
2011年10月15日(土)	筑波宇宙センター特別公開2011秋 ライブ放送
2011年10月5日(水)	「はやぶさプロジェクトの成果と今後の展開」ライブ放送 in はやぶさ i
2011年10月7日(金)	「太陽系小天体探査の潮流とはやぶさ」ライブ放送 in はやぶさ i
2011年9月20日(火)	「宇宙探査ロボット ミネルバとはやぶさ」ライブ放送 in はやぶさ i
2011年9月3日(土)	「はやぶさ」から「はやぶさ2」へ 特別講義ライブ放送 in はやぶさ i
2011年8月30日(火)	古川宇宙飛行士交信イベント in 日本科学未来館 ライブ放送

	送
2011年8月6日(土)	缶サット甲子園 2011 ダイジェスト版
2011年8月23日(火)	【第73回】第2回 夏休み宇宙子ども何でも相談室 in はやぶさ i
2011年8月10日(水)	【第72回】第1回 夏休み宇宙子ども何でも相談室 in はやぶさ i
2011年7月30日(土)	【第71回】JAXA 相模原キャンパス特別公開 ライブ放送
2011年8月4日(木)	【きみっしょん 研究発表会 ライブ中継】
2011年7月21日(木)	【第70回】スペースシャトル「アトランティス号」帰還ライブ放送
2011年7月8日(金)	【第69回】スペースシャトル「アトランティス号」打ち上げライブ放送
2011年7月6日(水)	【第68回】スペースシャトル ラストフライト直前放送
2011年6月10日(金)	【第67回】古川宇宙飛行士 ISSへ ライブ放送
2011年6月8日(水)	【第66回】古川宇宙飛行士 ソユーズ打ち上げライブ放送
2011年5月25日(水)	【第65回】古川宇宙飛行士 ソユーズ打ち上げ直前特集
2011年5月11日(水)	【第63回】人類初の宇宙飛行から50周年特集 その2
2011年5月16日(月)	【第64回】スペースシャトル打ち上げライブ放送!
2011年4月30日(土)	【第62回】スペースシャトル打ち上げ(延期)ライブ放送!
2011年4月13日(水)	【第60回】人類初の宇宙飛行から50年特集
2011年3月30日(水)	【JAXA ライブ中継】“HTV2 大気圏への再突入”
2011年3月29日(火)	【JAXA ライブ中継】“HTV2 ISSからの離脱”
2011年4月27日(水)	【第61回】NASA ジョンソン宇宙センター特集

③ NAOKO☆アサガオの栽培

山崎直子宇宙飛行士と共に宇宙に2週間滞在したアサガオの種子を希望する分団(66分団)に配布した。分団で栽培し、収穫した第2世代の種子をホームページで希望を募り、「NAOKO☆アサガオ」の命を繋げて行こう、ということを目的に全国に配布した。

【配布実績】

平成23年7月までに、団員、分団に224粒、一般向けに、宇宙子どもワークショップキャラバン配布分1,300粒、一般個人、団体へ400粒、合計1,946粒を配布。

④ 催事活動(後援等)

- ア 東広島商工会議所主催 「夏休みこどもイベント『宇宙科学で遊ぼう in 東広島』」(平成23年8月21日実施) 後援
- イ 一般社団法人青森県発明協会主催 「第53回青森県発明くふう展・2011子どもの『科学の夢』絵画展」(平成23年10月29日～10月30日実施) 後援
- ウ NPO法人日本モデルロケット協会主催 「第21回モデルロケット全国大会」(平成23年10月8日実施) 後援
- エ 学校法人電子開発学園九州主催 「宇宙展」(平成23年7月30日～7月31日、8月6日～8月7日、8月20日～8月21日、8月27日～8月28日実施) 後援

- オ 金沢市教育委員会主催 「平成 22 年度キゴ山宇宙塾」(平成 23 年 5 月 21 日～5 月 22 日、8 月 18 日～8 月 20 日、10 月 15 日～10 月 16 日実施) 後援
- カ (財)つくば科学万博記念財団主催 「第 13 回ジュニア発明展」(平成 23 年 4 月 11 日～平成 24 年 2 月 26 日実施、平成 23 年 11 月 26 日表彰式実施) 協力
- キ 「宇宙の日」記念全国小・中学校作文絵画コンテスト表彰式(平成 23 年 9 月 24 日実施) 共催

③ パネル等の貸出

宇宙関連イベントや分団が関わる催事に対して、YAC 紹介パネルやユニフォームの貸出を行う等、PR を実施した。

2. その他事業

2-1. 受託事業

文部科学省からの委託により 以下の事業を行った。

(1) 衛星データを利用した人材育成プログラム

文部科学省より、平成 23 年度地球観測技術等調査研究委託事業として、「将来の幅広い分野での衛星データ利用を目的とした子ども向け人材育成プログラムの開発及び全国での実証」を受託し、① 体験学習プログラムの実証等、② 発表会の実施、③ 学校用教材・授業の開発を実施した。

【実施内容】

① 体験学習プログラムの実証等

1. 平成 22 年度に実施した試行プログラムを基に、科学館等で実証研究を目的とした講習会を福岡(九州大学)、北海道(釧路市子ども遊学館)、茨城(筑波宇宙センター)、青森(三沢)、広島(呉市立中央小学校、呉市立長浜中学校、呉市立仁方中学校、呉大和ミュージアム)で実施した。
2. 実証等実施にあたり、有識者による実証研究会(平成 21 年度結成、22 年度からの継続メンバー)と連携し、受講者に対してアンケート調査を行い、統計情報から主題分析から語彙分布を作成した。
3. 平成 22 年度行った体験学習プログラムの検討結果を基に次の教材開発を行った。
 - (i) リモートセンシング理解導入教材
 - (ii) 子ども向け衛星データ利用のハンドブックの開発

② 発表会の実施について

平成 22 年度から計画をしていた子ども達の衛星データを活用したレ

ポートコンテストについて、次の作業を行った。

- (i) 衛星画像データを用いて子どもを対象に個人やグループ、学校単位等で発見型レポートをコンテスト形式で実施した。
- (ii) 最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞等の賞を設け、受賞者に賞状を授与し、その結果をホームページ上で公開した。
- (iii) レポートコンテストの審査にあたっては、実証研究会の委員のほかJAXA地球観測センター、宇宙教育センターの協力を得て実施した。

レポートコンテストの審査結果

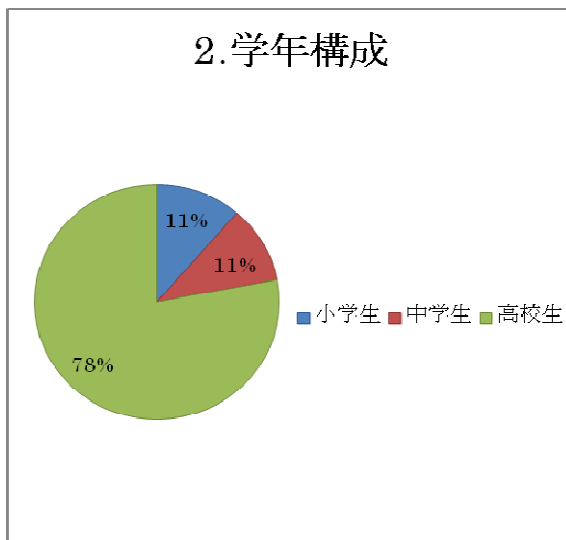
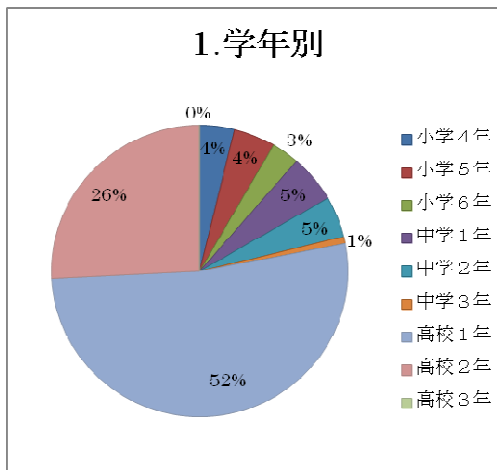
個人応募107件、(グループ応募)9件、計116件、
参加者総数132名の参加があり衛星データを利用した課題の取り組み成果を上げることができた。

<応募状況>

応募形態	件数
個人	107
グループ	9
(合計)	116

1. 学年別	人数	比率
小学4年	5	3.8%
小学5年	6	4.5%
小学6年	4	3.0%
中学1年	7	5.3%
中学2年	6	4.5%
中学3年	1	0.8%
高校1年	69	52.3%
高校2年	34	25.8%
高校3年	0	0.0%
(合計)	132	100.0%

2. 学年構成	人数	比率
小学生	15	11.4%
中学生	14	10.6%
高校生	103	78.0%
(合計)	132	100.0%



<表彰内訳>

◆最優秀賞

(小学生)	個人	カプロス 颯治	鹿児島県桜島
(中学生)	グループ	栗林 海里	アイスランドの氷河の変化
		遠藤 弘平	
		赤間 可奈子	
		村島 羽	

- | | | | |
|---------|-------|----------------|------------------|
| (高校生) | グループ | 鷺谷 美妃
吉田 奈央 | 秋田の地形と農業について |
| ◆優秀賞 | | | |
| (中学生) | 個人 | 相田 圭人 | 1991年から1999年への変化 |
| ◆審査員特別賞 | | | |
| (中学生) | 個人 | 西川 知輝 | 宇宙から見た桜島 |
| (高校) | 1、2学年 | 生徒101名 | 各自のテーマ |
- <受賞作品レポート>
- ◆最優秀賞（小学生の部） 個人 カプロス 顕治（4年生）

③ 学校用教材・授業の開発について

リモートセンシングのもっている教育的な意義について理解を深めてもらうために、衛星画像を活用した授業が幅広く行われることを目指して、衛星画像データを活用した授業の研究を次のとおり行った。

- (i) 教育委員会と連携して小学校、中学校、高等学校の社会、総合学習等の授業に役立つ活用事例として実証研究会の委員が講師となり児童生徒に授業を実践した。教材・授業開発の内容に関しては授業実施前に学習計画を作成し、学習指導内容とした。教材は教科書と照らし、衛星画像教材を用いて衛星データで分かることや衛星データの仕組みについての概念作りのための説明資料を作成した。また、E I S E I ソフトを使用した実習を行い、地図帳を用いて地域の特徴を確かめた。また、衛星画像教材を用いた学習テキストを作成し、児童生徒に予習を行わせた。
- (ii) 上記 (i) の授業を行うにあたり、小・中学校においてサーモグラフィ（近赤外線）を整備し、同機器を使用した温度変化の実験を行い、衛星データを用いた輝度温度について説明を行った。
- (iii) 実証研究会の委員が講師となり、小学5年生を対象に衛星データを教材として活用した「防災教育」の授業研究を実践した。

[II] 管理関係

1. 役員会

平成23年度は、役員会を以下のとおり開催した。

(1) 理事会

- 平成23年 5月16日 (月) 第59回理事会書面表決決議
(評議員の選任等)
- 平成23年 6月18日 (土) 第60回理事会 (22年度決算)
- 平成23年10月23日 (日) 第61回理事会 (公益法人移行関係)
- 平成24年 3月17日 (土) 第62回理事会 (24年度予算)

(2) 評議員会

- 平成23年 6月17日 (金) 平成23年度第1回評議員会 (22年度決算)
- 平成23年10月20日 (木) 平成23年度第2回評議員会
(公益法人移行関係)
- 平成24年 3月16日 (金) 平成23年度第3回評議員会 (24年度予算)

2. 経理概況

平成23年度の主な収入としては、会費収入として1,283万円(団員会費収入747万円、賛助会費収入約536万円)、事業収入2,768万円等、合計4,362万円の収入が得られた。支出としては、事業費3,351万円、管理費等965百万円の支出があり、差引約46万円の黒字であった。

3. 人員

平成24年3月31日現在の人員状況は次のとおりである。
理事18名(非常勤)、監事2名(非常勤)、評議員22名(非常勤)、事務局員(非常勤4名)

4. その他

公益財団法人への移行に向けて平成24年2月22日に内閣府公益認定等委員会に電子申請した。